

研究課題名	機械学習によるパーキンソン病患者における予後予測の基盤構築
実施責任者	所属・職名： 脳神経内科 部長
	氏名： 馬淵 直紀
研究の概要	<p>パーキンソン病は中脳黒質にあるドパミン神経細胞が減少し身体の運動調節に関係するドパミンが不足し発症する変性疾患である。本邦の患者数は厚生労働省の患者調査から10万人あたり100人から150人と推定され患者総数は約30万人と報告される。パーキンソン病は欧米では男性に多い疾患であるが日本では女性に多く、50歳から65歳に発症することが多い。発病率は高齢になるほど高くなるため、人口高齢化が進む中では世界的に増加している。パーキンソン病の典型的な運動症状は無動、固縮、振戦、姿勢反射障害があげられ、そのほかにも幻視や自律神経障害などの非運動症状を呈し多岐にわたる。症状は緩徐に進行するとされるが、患者さんごとにより症状や進行速度は異なり、正確に個々の患者さんの症状悪化予測を立てることが困難であった。そこで過去のパーキンソン病患者さんの症状を用いてパーキンソン病患者さんの予後予測を行い、患者さんごとの症状悪化速度を数理的に予測可能にする。</p>
対象となる個人情報	<p>① 臨床情報：年齢、性別、罹患期間</p> <p>② 臨床症状：振戦、筋強剛、歩行障害、精神障害、自立神経障害、日常自立度(modified Ranking Scale)</p>
実施の期間	西暦 2022年 1月 1日より
	西暦 2024年 12月 31日まで
研究対象	2022年1月から2024年12月までに当院を受診したパーキンソン病患者様